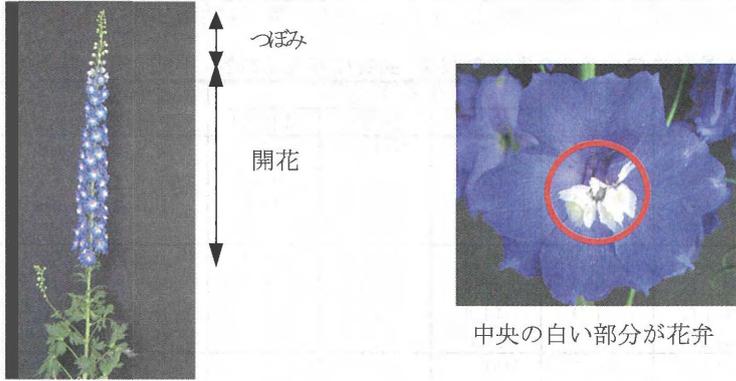


事項	県育成デルフィニウム品種「ブルースピアー」における品質保持技術		
ねらい	「ブルースピアー」は花穂が長大な品種であり、花穂の上方まで開花が進展したステージでは花穂下方の小花が老化し、落花しやすい。そこで「ブルースピアー」について収穫適期および前処理方法を検討したので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 採花時期および小花の調整</p> <p>(1) 収穫適期は花穂の4分の3程度が開花した時点とする。</p> <p>(2) がく片中央にある花卉が脱落した小花は、鑑賞期間中にながく片も脱落するので調整時に除去する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>収穫適期のステージ</p> <p>中央の白い部分が花卉</p> </div> <p>2 前処理方法</p> <p>(1) 前処理前の吸水は収穫後落花の原因となるので行わない。</p> <p>(2) クリザールK-20C 1,000倍液を使用し、常温あるいは低温での処理に関わらず7時間から15時間処理する。</p> <p>(3) 処理時間が15時間を超過すると日持ち日数が低下する。</p> <p>3 出荷</p> <p>(1) 鮮度を保持できる湿式縦箱輸送が望ましい。</p> <p>(2) 乾式横箱輸送は日持ち日数を低下させないが、水切れによる花穂先端の曲がりや小花のしおれを生じる。なお水切れによる花穂先端の曲がりやしおれは、切り戻しにより回復する。</p>		
期待される効果	収穫後落花および早期萎凋が回避され、さらに日持ち日数が延長するため市場での評価が高まる。		
利用上の注意事項	<p>1 採花の遅れた切花は、前処理によって落花や萎凋を防止できない。</p> <p>2 クリザールK-20Cは使用直前に希釈し、再使用はしない。</p> <p>3 本成果は春定植、夏切り栽培に適用する。</p>		
担当部署(担当者名)	青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり 生産技術部 (加藤直幹)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成19～20年度 青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり花き試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 採花時期と花卉脱落およびがく片脱落の関係

(平成20年 青森農林総研フラワーセ)

採花時期	調査時期	花穂の開花程度 (%)	花卉脱落小花数 (個)	がく片脱落小花数 (個)	がく片脱落の程度 (%)
切り前4と5の中間 (4分の3程度開花)	採花時	76.9±4.2	0.0±0.0	0.0±0.0	0.0±0.0
	前処理終了時	82.8±3.4	0.4±0.5	0.0±0.0	0.0±0.0
	7日目	91.7±2.1	0.6±0.9	0.0±0.0	0.0±0.0
切り前5	採花時	82.9±1.7	8.4±4.2	4.0±3.1	10.8±5.7
	前処理終了時	85.8±1.5	10.4±2.6	6.2±3.4	16.2±4.9
	7日目	91.9±4.3	14.2±2.4	9.4±3.8	23.5±3.6

- (注) 1 切り前4と5の中間は、花穂の4分の3程度が開花したステージ
 2 切り前は「花の切り前」1994年 誠文堂新光社を参考
 3 調整長110cm、平均花穂長65cmの切り花を用いて調査

表2 各処理条件における日持ち日数および銀吸収量

(平成20年 青森農林総研フラワーセ)

区名	日持ち日数	花器部における銀吸収量 (μmol)	日持ち終了の要因
1,000倍7時間処理 (常温)	7.6±0.5	4.3	萎凋
1,000倍7時間処理 (低温)	8.2±0.8	1.7	萎凋
1,000倍15時間処理 (低温)	7.8±0.4	3.2	萎凋
2,000倍15時間処理 (常温)	6.2±0.4	1.5	萎凋
2,000倍15時間処理 (低温)	6.2±0.4	1.8	萎凋
2,000倍30時間処理 (低温)	7.0±1.4	1.4	萎凋
1,000倍30時間処理 (常温)	5.0±0.0	2.5	萎凋
水揚げ後2,000倍15時間処理 (常温)	2.6±1.1	0.1	落花

- (注) 1 前処理剤としてクリザールK-20Cを使用
 2 銀吸収量は切花100g当たりの値を示す
 3 常温処理時における平均気温は24℃、低温処理時における平均気温は7℃

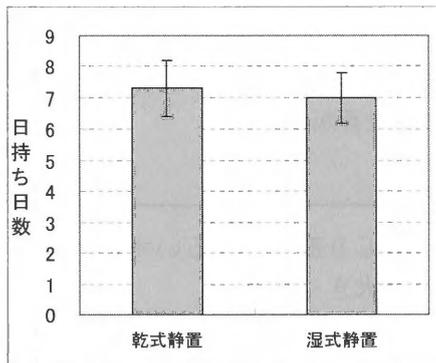
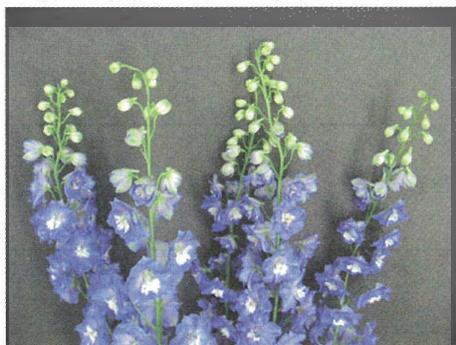


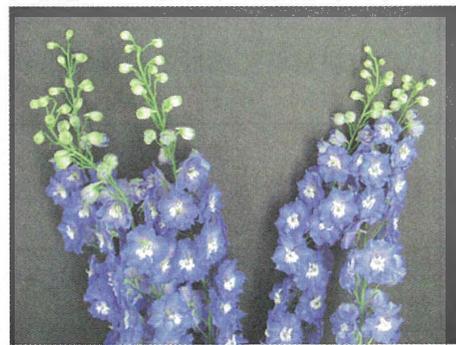
図1 静置条件と日持ち日数の関係

(平成19年 青森農林総研フラワーセ)

- (注) 1 クリザールK-20C 2,000倍 15時間処理 (常温)
 2 乾式静置、湿式静置とも10℃、20時間静置



乾式静置



湿式静置

写真1 乾式および湿式20時間静置後の様子

- (注) 1 乾式静置では小花の萎凋が観察される
 2 処理条件は図1を参照

(平成19年 青森農林総研フラワーセ)